

支えあう 住みよい社会 地域から

みなさんの暮らしを応援するため、
国から委嘱されて活動しています。

専門家ではありませんが、
子どもや家庭のこと、地域のことなどを
みなさんと一緒に考え
サポートしています。



お元気ですか、
わたしたち **民生委員児童委員** は、
あなたの一番 **身近な相談員** です。



民生委員
児童委員は、
青い門標と
マークが
めじるし!

育児・教育・住居・暮らし・家族関係
お年寄りの福祉・介護保険・健康・その他 等々
暮らしに関すること、困ったこと、悩みごとなどお気軽にご相談ください。

※相談のプライバシーは守ります!

[連絡先]

※第一地域包括支援センターTel./381-2930
児童相談所全国共通ダイヤル 0570-064-000

あさひが丘自治会 < 担当 >
工藤 多希子 携帯 090-7646-3159
松本 和子 携帯 090-8647-3932

民生委員児童委員は、住民の**身近な相談相手**として、**関係機関へのつなぎ役**や、**地域の見守り役**として、さまざまな活動をしています。



○民生委員児童委員ってどんな人？

全道で約1万人（札幌市も含めると約1万3千人）の民生委員児童委員が活動しています。

民生委員児童委員とは

民生委員児童委員は地域住民のなかから選ばれ、自らも住民の一員という性格をもって住民の見守りや相談活動を行います。（担当区域をもって活動します）

- 民生委員は厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員です。
民生委員は、児童福祉法に定める児童委員を兼ねています。
- 厚生労働大臣が定めた基準をふまえ、市（区）町村ごとに人数が定められています。
- 任期は3年で、再任も可能です。
- 無給のボランティアとして活動します。
（活動に必要な電話代・交通費などに充てる実費代償費の支弁があります。）

主任児童委員とは

主任児童委員は、子どもや子育て家庭への支援を専門に担当する民生委員児童委員です。（担当区域はもちません）

- 児童福祉関係機関と区域担当民生委員児童委員との連絡役となって、協力して活動を行ないます。



心配ごと、悩みごとを ひとりで抱えていませんか？



暮らしに関すること、困ったこと、悩みごとなど
お気軽にご相談ください。

【こんなとき民生委員児童委員へ】

在宅生活に関すること

- 毎日の介護で困っていること
- 福祉サービスの利用に関すること
(ホームヘルプ、給食、移送、除雪サービスなど)
- 施設利用に関すること
(デイサービス、ショートステイなど)
- 介護保険制度に関すること
- その他



家族関係のこと

- 結婚、離婚に関すること
- 親子関係に関すること
- 扶養に関すること
- 相続に関すること
- その他



その他の困りごと

- 心身の疾病や障害に関する相談等



暮らしのこと

- 住まいに関すること
- 近所付き合いに関すること
- 生活費に関すること(職業や年金など)
- 生活福祉資金など各種貸付
制度の利用に関すること
- 生活保護に関すること
- 遊び場、通学路などの
危険箇所に関すること
- 公害や環境衛生に
関すること
- その他



育児・教育のこと

- 育児やしつけに関すること
- いじめや不登校に気付いたとき
- 学校生活の悩みに関すること
- 非行に関すること
- 児童虐待に関すること
- その他



○安心してご相談ください

民生委員児童委員には民生委員法に定められた守秘義務があり、相談内容が他の人に伝わることはありません。

民生委員制度は平成29年に100周年を迎えた歴史と実績を有する制度です

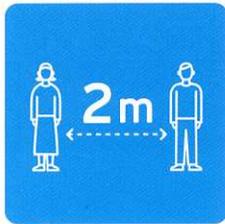
民生委員制度は、大正6年に岡山県で創設された「済世顧問制度」に始まり、以来100年にわたり、住民の一員として、住民視点になって安心して住み続けることができる地域づくりに取り組んできました。

この間、住民への相談支援とともに、昭和40年代以降、わが国初の「在宅ねたき高齢者実態調査」をはじめ、「父子家庭の実態調査」「在宅認知症高齢者の介護者実態調査」などを実施。時代に先駆け、種々の福祉課題を明らかにするとともに、そうした社会的な課題改善のための全国運動に取り組み、その後の福祉施策の充実に貢献してきました。



○健やかな毎日のために、地域全体で感染症予防に努めましょう!

道民の皆さまへ「新しい生活様式」の実践をお願いします



いまは、
きよりをとって



手を洗おう



咳エチケット



換気をしよう



3つの「密」を
さけよう



テイクアウトや
デリバリーも



オンラインを
上手に使う



北海道スタイル

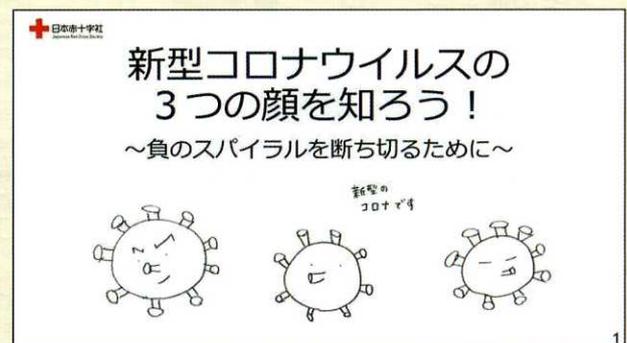
「北海道スタイル」はじめよう。

○感染症による差別や偏見のない社会を目指しましょう!

感染者や医療従事者、その家族に対する不当な差別が大きな社会問題となっています。誰もが感染するかもしれないこの状況のなか、このことを私たちはどのように考えたらよいのでしょうか。

そこで参考になるのが、日本赤十字社が作成した啓発資料「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう! ~負のスパイラルを断ち切るために~」です。

この啓発資料は、新型コロナウイルスは、“病気”、“不安”、“差別”の感染を広げ、それぞれが連動していることから、正しい知識と考え方を身につけることの必要性を、分かりやすく解説していますので、ぜひご覧ください。



出典:日本赤十字社

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!

~負のスパイラルを断ち切るために~」

http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html



発行:公益財団法人 北海道民生委員児童委員連盟

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2.7

TEL 011-261-2181 · FAX 011-261-3081